



きした 敬 二 木下けいじ 県議会レポート

発行 / 自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

児童虐待防止緊急対策で要望!

6月 議会

自民党を代表して登壇

4月の統一地方選挙の県議選で、新たに合区された鴨川市・南房総市・安房郡選挙区から4期目の当選を果たした木下敬二(きした・けいじ)県議は、自民党千葉県連の政務調査会長という立場から、6月県議会質疑のトップバッターとして本会議場に登壇しました。党の代表質問に立つのは今回が4回目。木下県議は、冒頭から社会問題化して

いる児童虐待対策を取り上げ、県が策定した虐待防止のための緊急対策の課題などを指摘し、一時保護所の早期完成をできるだけ前倒しするよう、要望しました。他にも東京オリンピックの聖火リレーへの取り組みや、子どもを巻き込む交通事故対策など、幅広く県政の重要課題を取り上げました。木下県議の主な質疑を特集しました。

行政機関の課題認識

木下議員 本年1月、野田市で発生した小学4年生の女児が虐待により亡くなるという、あつてはならない大変痛ましい事件が発生しました。県をはじめとした行政機関の対応について、多くの課題があったものと

森田知事 今回の事案で

は児童相談所の対応において、関係機関との情報共有や連携、リスクの評価、援助方針の決定などについて、さまざまな課題があったものと認識しています。

緊急対策のポイント

木下議員 児童虐待防止対策の課題に対して、どのような対策を講じることとしているのか。
森田知事 県では、一刻も早く再発防止に取り組みするため、児童虐待防止緊急対策として、
○職員への虐待対応力の向上とケースマネジメントの強化
○市町村への弁護士や精神科医などの専門家の派遣や、相互研修による人事交流の拡大
○業務の効率化や職員増員の前倒しなどによる、児童相談所の業務執行体制の強化
○さまざまな媒体を活用した県民への年間を通じた広報啓発の実施
○一時保護所の増設、里親委託の推進、児童養護施設整備等、家庭での養育の整備等



代表質問の壇上に立つ木下県議

○市町村や関係機関との連携、役割の明確化ができていなかったこと
○児童虐待に対する県民への周知が不十分だったこと
などの課題があるものと考えています。また、一時保護所の定員や里

親、施設の受け皿が不足している現状を踏まえ、これらの事項について緊急対策を講じることとしました。

地域防災対策の見直し

木下議員 県では、災害の予防、災害発生時の応急対策などを実施するため、「千葉県地域防災計画」を策定していますが、今後、発生が予想される首都直下

地震などの災害から、県民の生命、財産を守る責務のある県として、昨今の災害での課題を調査し、対策を検討の上、県の地域防災計画に盛り込んでいくことが必要ではないでしょうか。そこで伺います。県の地域防災計画について、今後どのように見直ししていくのか。

高橋副知事 県では、現在、昨年の大規模災害での課題などを基に、計画の見直しを進めており、具体的には
○平成30年7月豪雨で課題となった住民への避難情報等の確実な伝達手段の確保
○北海道胆振東部地震での大規模停電を踏まえ、災害対策本部が置かれる市町村庁舎の非常用電源燃料の備蓄増強
などの対策を検討しているところです。

●自民党県連の政務調査会長として!

木下けいじ 県事務所

〒295-0005 南房総市千倉町牧田164-1 TEL.0470(44)4111 FAX.0470(44)4112

●木下けいじ公式ホームページ=http://kishitakeiji.com/ ●Eメール=info@kishitakeiji.com

地域一体で聖火リレーを



自民党の代表質問から



自席から再質問と要望を語る木下県議

聖火リレーの準備

木下議員 6月1日には、東京オリンピックの組織委員会から聖火リレールートの概要が公表されました。また、今年度は県内で数多くの国際競技大会も開催されることで、大会の開催機運もさらに盛り上がりつつあるものと思います。

まずは、東京オリンピックの聖火リレーについて伺います。聖火リレーは、今後どのように準備を進めていくのか。
森田知事 組織委員会から公表された本県のルートは、3日間という限られた中で、県内の道路網を最大限活用し、幅広い地域で効果的にリレーを実施できるものになっていると考えています。

ルート概要の公表に続き、7月1日からは各都道府県による聖火ランナーの募集が

円滑な大会運営に努力

木下議員 大開開催時の運営面における県としての対応は、どのように考えているのか。

森田知事 県はこれまで、競技会場の改修などを着実に進めてきましたが、危機管理や交通対策などの運営面においても、大会時に県民や来訪者の安全・安心を確保する観点から、組織委員会と密接に連携していくことが重要だと認識しています。

開始となります。本県としては、地域のバランスに配慮するとともに、市町村の意向も踏まえながら、ランナーの選考を進めてまいります。

聖火の出発や到着時のイベントなどを含め、多くの県民の方々が参加し、地域が一体となる魅力をアピールできる千葉県らしい聖火リレーとなるよう、しっかりと準備を進めてまいります。

このため、県としては危機管理の二環として、災害やテロを想定した訓練を実施するほか、大会時には、会場内の運営状況や会場周辺の気象、事故、災害などの情報を集約し、組織委員会や都市ボランティア、周辺事業者等との間で、速やかに情報を共有・伝達できる体制を構築します。

企業に提供して、社員の時差出勤、商品や部材の調達計画の見直しといった取り組みをまいります。

小規模企業者への支援策

木下議員 県内中小企業のうち86%を占めているのが、小規模企業です。経営者の高齢化が進む中、小規模企業の減少が進めば、雇用の場や技術等が失われるなど、地域経済に大きな影響を及ぼすため、事業継承や起業・創業への支援が特に重要だと考えます。

小規模企業者について、事業継承や起業・創業の支援を充実すべきと思うがどうか。

滝川副知事 小規模企業者については、事業の継続に不安を抱えている経営者が増えていることから、関係機関と連携しながら、直接訪問により事業継承への早

めを呼びかけるなど、円滑な大会運営に積極的に努力してまいります。

今年度は、これらに加え事業継継計画の作成や専門家のアドバイスを受ける費用の一部を助成するなど、事業継承への取り組みを二層促進してまいります。

また、起業・創業については、ビジネスプランの表彰や起業家同士が集う「ちば起業家大交流会」などを実施する中で、啓発から経営支援、人脈づくりまで一貫して支援してまいります。

さらに、今年度は県制度融資の創業資金の利用者が負担する信用保証料を半額にするなど、起業・創業への支援を層充実させてまいります。

ゼブラ・ストップ作戦

木下議員 最近、木更津市で登校途中の小学3年生2人が横断歩道上で車にはねられ死傷するなど、子どもが巻き込まれた痛ましい交通事故が相次いで発生し、交通安全対策の重要性が改めて強く認識されています。今後の交通安全対策について、県警はど

のように取り組んでいくのか。
早川警察本部長 県警では、横断歩道を通行する歩行者等の事故被害を防ぐ観点から、昨年来「歩行者保護ゼブラ・ストップ作戦」を推進しており、引き続き磨耗した横断歩道の補修や、横断歩行者妨害違反の取り締り等に

より、ドライバーに対する歩行者保護意識の浸透を図ることにしています。また、本年4月に交通機動隊に新設した「特命広域機動班」を効果的に運用し、重大事故の多発が懸念される地域等に白バイ等を集中的に展開させるなど、死亡事故等の抑止を図ることにしています。

さらに、最近の痛ましい交通事故の発生等も踏まえ、学校や地域住民等と連携した子どもの見守り活動や、通学路における交通指導取締りを強化するとともに、道路管理者と連携した交通環境の整備等に取り組むこととしています。

今後、点検結果に基づき、事故に巻き込まれる危険性の高い箇所から、車の誤進入に対する効果の高い「車止めポール」や「ガードレール」の設置などを速やかに実施してまいります。

過去最大の県税収入

木下議員 わが国の経済は、これまでアベノミクスの成果により、企業収益が過去最高を記録するなど、確実に成長してきました。一方、県の予算では、県税収入は堅調に伸びてきているものの、財政調整基金の取り崩しにより、何とか収支を均衡させている状況です。平成30年度の一般会計の決算見込みはどうか。

高橋副知事 平成30年度の年間収支は、2月補正予算段階で、収支均衡の見込みとなっていました。その後、年度末までに①歳入面では、企業収益の増加により法人2税が増加したこと②歳出面では、執行時における徹底した経費の節減に努めたこと、人件費や社会保障費等の確定

に伴う不用額が生じたことなどから、80億円程度の黒字となる見込みです。
木下議員 令和元年度の財政運営について、どのように考えているのか。
森田知事 雇用・所得環境の改善が続く中、本県においても、景気の緩やかな回復基調が続いており、令和元年度当初予算では、過去最大の県税収入を見込んでいます。

一方で、米中間の貿易摩擦が世界経済情勢に与える影響など、景気の先行きに對する懸念材料もありません。このため、県においても引き続き執行段階での徹底した経費節減や、県税徴収対策の充実・強化に取り組むなど、気を引き締めた財政運営を行ってまいります。

子供巻き込む交通事故を防げ!